

学校だより

学校スローガン「見つけろ！広げろ！我が可能性を！」



有家中だより

令和6年 4月10日

南島原市立有家中学校

校長 本多 洋二

お世話になります。

この4月に西有家中学校から転勤してまいりました本多洋二と申します。有家中学校には、20年前に7年間勤務していましたので、私を育てていただいた学校・地域といえます。有家中は、私にとっては、第二の母校という感じです。

今年度、有家中学校の生徒たちのために全力で頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

さて、令和6年度の有家中学校は、次のことについて努力してまいります。

＜＜学校教育目標＞＞

「心豊かで、心身共にたくましく生きる生徒の育成」

＜学校スローガン＞

「見つけろ！広げろ！我が可能性を！」

☆こんな子どもに……

「昨日より今日、今日より明日高める生徒」

- ・知性を磨く（主体的に学ぶ）生徒『知』
- ・心を磨く（礼儀正しく、思いやりのある）生徒『徳』
- ・身体を鍛える（心身ともに健康である）生徒『体』

令和6年度、有家中学校に13名の職員が新たに転入しました。私たち職員一同、それぞれの持ち味を生かして、それぞれの職責を果たしていきたいと思っています。しかしながら、子どもの教育は、学校だけではできないことは、皆さんご存知のとおりです。保護者の皆様、地域の皆様と手を携えて、子どもの将来のため、夢の実現のために日々の教育に力を注ぎたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年度 職員です。

校長 本多 洋二（西有家中から）

教頭 松尾 博愛（島原三中から）

＜1年職員＞

学年主任 田中 正一（口之津中から）

1組担任 近河 淳可（2年目）

2組担任 山口 直紀（4年目）

4組担任 平 里美（2年目）

副担任 岩永 典子（西有家中から）

＜2年職員＞

学年主任 薄田 真紀子（吾妻中から）

1組担任 内田 朱夏（新規採用）

2組担任 白倉 靖和（布津中から）

3組担任 宮野 浩（南有馬中から）

4組担任 平 里美（2年目）

副担任 田中 誠司（再任用教諭）

＜3年職員＞

学年主任 高原靖雄（6年目）

1組担任 東 康洋（3年目）

2組担任 生駒 彩子（北有馬中から）

4組担任 平 里美（2年目）

副担任 高木 勝也（4年目）

副担任 臼井 千世（小浜高校から）

（裏ページへ続く）



令和6年度 職員です。(前ページの続き)

<専門職員>

養護教諭 中村 由美(4年目)
事務職員 栗田 エミ(2年目)
用務員 川村 京子(3年目)
特別支援教育助手 中村 安次郎(2年目)
// 小川 真依(新規任用)
スクールカウンセラー 中村 幸村(12年目)
学校支援員 吉田 明美(4年目)
教育相談員 福田 収作(新規任用)
新採指導教員 湯治 康信(深江中から)
ALT クリア・カタリナ(3年目)

4月の主な行事

11日(木) 集団訓練・礼法アラカルト
12日(金) 歓迎遠足・部活動紹介
15日(月) 生徒集会・学級委員任命式
16日(火) 尿検査(～18日)
17日(水) 1年心電図検査尿検査
18日(木) 全国学力調査(3年国、数)
県学力調査(2年国、数)
19日(金) 県学力調査(3年英)
23日(火) 内科検診(3年14:00～)
24日(水) 授業参観・PTA総会・部活動振興会総会
30日(火) 内科検診(2年)

<学校スローガンについて>

「**見つけろ！ 広げろ！ 我が可能性を！**」を合言葉に、「昨日より今日、今日より明日高める生徒」の育成を目指して、全職員一致団結、協働して取り組みます。将来に向けて、生徒たちが無限の可能性を見つけ、広げてほしいとこのスローガンにしました。このことは、人と比べるのではなく、昨日の自分より、今日の自分、今日の自分より明日の自分、と自分自身を比べて、少しでも成長している自分になって欲しいという願いを込めています。

今年度、特に力を入れること！

今年度、有家中の生徒へ特に徹底したいことを始業式で話しました。「**挨拶・返事・後始末**」の実践です。有家中生は、心を込めた挨拶、気持ち良い返事、後始末の習慣化に取り組みます。御家庭でもご協力をお願いします。

ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

「言葉は、毒にも、薬にも……」

ある心理学者の話で、「人を病気にするには簡単だ。会うたびに『顔色が悪いね、どうしたの?』と聞けばいい。」そうです。(何でもない人にわざとと言う場合です。)そういう意味で言葉は魔物です。昔、言葉(ことだま)と言われたように、言葉には霊力が宿り、人を生かしても殺しもあります。ちょっとした言葉で、人を傷つけた経験は誰にでもあるでしょう。十分に心したいものです。

映画「寅さんシリーズ」の山田洋次監督は、「青春時代にいくつ褒められたかで、人間の人生は決定する気がする」と言っています。人の褒め言葉で調子に乗る必要はありませんが、まっすぐ受け止めることは必要です。忠告や励ましの言葉も謙虚に受け止め、一つ一つの言葉が自分を高めると意識だけは、常に心の中に持っていたいものです。有家中学校では、良いところを認めながら、自己肯定感を高める指導をしてまいります。ご理解よろしく申し上げます。

